



# HP ALM

ソフトウェアバージョン: 12.50

## 新機能

ドキュメントリリース日: 2015 年 9 月 (英語版)  
ソフトウェアリリース日: 2015 年 9 月



## ご注意

### 保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

### 権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

### 著作権について

© Copyright 2002 - 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標について

Adobe™ は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®, Windows® は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Unix® は、The Open Group の登録商標です。

本製品には、'zlib' (汎用圧縮ライブラリ) のインターフェースが含まれています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

## ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。<https://softwaresupport.hp.com> にアクセスして、[Register] をクリックしてください。

## サポート

HP ソフトウェアサポートオンライン Web サイトを参照してください。<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HP のお客様窓口のほか、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HP ソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HP ソフトウェアサポートの Web サイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ユーザ ID の登録は、次の Web サイトにアクセスしてください。 <https://softwaresupport.hp.com> にアクセスして、[Register] をクリックしてください。

アクセスレベルの詳細については、次の Web サイトをご覧ください。

<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

## HP ソフトウェアソリューションと統合とベストプラクティス

**HP Software Solutions Now** (<https://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>) では、HP ソフトウェアのカタログ記載製品がどのような仕組みで連携、情報の交換、ビジネスニーズの解決に対応するのかご確認いただけます。

**Cross Portfolio Best Practices Library** (<https://hpln.hp.com/group/best-practices-hpsw>) では、ベストプラクティスに関するさまざまなドキュメントや資料をご覧ください。

# 第1章: ALM 12.50 の新機能

この新機能ガイドでは HP Application Lifecycle Management (ALM) 12.50 で導入された機能や拡張された機能の概要を説明します。

**ヒント:** Performance Center 12.50 の新機能については、[「Performance Center 12.50 の新機能」\(33ページ\)](#)を参照してください。

ALM のメイン・ウィンドウで **[ヘルプ]** > **[ムービー]** を選択すると、HP Application Lifecycle Management の機能について説明するビデオもご覧いただけます。

- [「HP ALM の更新」\(5ページ\)](#)
- [「ALM Web クライアントの更新」\(6ページ\)](#)
- [「Business Process Testing の更新」\(7ページ\)](#)

## HP ALM の更新

### 外部テストの統合

ALM は、外部で実行したテスト結果を ALM と同期できるようにすることで、テスト機能を強化します。Jenkins などのテスト・フレームワークによって実行された自動化テストは、最新のテスト実行とともに ALM に統合され、品質チームに包括的な品質カバレッジを提供します。Jenkins を使用する場合、この統合によって継続的テスト・プロセスが強化されます。

ALM には、結果を ALM と同期する方法が2種類用意されています。

<b>Jenkins から結果を同期</b>	Jenkins を設定して結果が ALM と同期されるようにすると、Jenkins からジョブを実行するたびに、外部の結果が自動的に ALM と同期されます。
<b>外部テスト・ツールで結果を同期</b>	外部テスト・ツールを使用する場合、ファイルを ALM に手動でインポートすることで、外部の結果ファイルを ALM と同期します。

### クライアント側のデプロイメント

ALM クライアントは、ALM バージョンごとに1回デプロイされます。クライアントのダウンロードが開始されると、ALM Platform ロードは、サーバ上の ALM バージョンをクライアント・マシン上の ALM バージョンと比較し、バージョンが異なる場合にのみ、クライアントをデプロイします。これにより、ALM を事前にインストールできるようになりました。たとえば、次のような操作が可能です。

1. 新しいバージョンの ALM または新しいパッチをステージング・サーバにインストールします。
2. クライアント・マシンからステージング・サーバにリンクします。これで、新しい ALM クライアントがクライアント・マシンにデプロイされます。

その後、引き続き運用サーバにアクセスして、古い ALM クライアントを使用できます。運用サーバを新しいバージョンの ALM にアップグレードすると、各クライアント・マシンは自動的に新しい ALM クライアントを使用します。

また、MSI Generator で追加のサーバを指定して、1 つの MSI を複数の ALM サーバで利用可能にする必要もなくなりました。

## データ非表示

ALM 内の特定の重要なフィールドは非表示にできません。これらのフィールドには、[プロジェクトのカスタマイズ] でプラス記号のマークが付けられています。

## メモ・フィールドへの画像の追加

ALM レコードに画像を追加できます。画像、アプリケーションのスナップショット、またはクリップボードのアイテムを添付できます。添付ファイルをサポートしているエンティティの任意のメモ・フィールド (不具合の [説明] や [コメント] セクションなど) に画像を追加できます。

## ユーザのロックアウト

ALM サイト管理者は、不正にログインを試みるユーザをロックアウトできます。ユーザがロックアウトされると、そのユーザのステータスは [非アクティブ] に設定されます。その後、ユーザをアクティブにするか、期間を設定してユーザを自動的にアクティブにすると、ロックアウトを終了することができます。

## グローバル検索

すべてまたは特定の ALM モジュールを検索できる強力なグローバル検索エンジンです。検索対象となるのは、不具合、要件、テスト、テスト・セット、および Analysis の各モジュールです。グローバル検索をインストールして有効にする方法の詳細については、

<https://hpln.hp.com/contentoffering/alm-global-search> を参照してください。

## システム要件の更新

- ・オペレーティング・システムのサービス・パックおよび更新は、ベンダの一般的に入手できるリリースと互換性がある場合に限ってサポートされます。
- ・データベース・サーバのサービス・パックおよび更新は、ベンダの一般的に入手できるリリースと互換性がある場合に限ってサポートされます。

# ALM Web クライアントの更新

## 利用可能な機能の変更

今回のメジャー・リリース・サイクルの一部として、Web クライアントのリリースが予定されています。12.00, 12.01, 12.20, 12.21 のいずれかの Web クライアントを使用している場合、Web クライアントの使用を継続するには引き続きそのバージョンを使用する必要があります。バージョン 12.50 では使用できなくなるためです。

## Business Process Testing の更新

### 【テスト スクリプト】 タブの拡張ビュー

- 新しい拡張ビューを使用すると、【テスト スクリプト】 タブのグリッド・ビューに情報を表示できます。これにより、さらにリンクをクリックしなくても、テスト・コンポーネントのより包括的なビューを表示できます。表示できる追加情報には、次のようなものがあります。
  - アイコンではなくスナップショットのサムネイル。
  - 入力パラメータと出力パラメータ用の別々のカラム。パラメータ名および (反復が1つしかない場合は) パラメータ値が表示されます。
  - 入力パラメータと出力パラメータ間のリンク。【I/O パラメータ】 ダイアログ・ボックスを開く必要はありません。

また、拡張ビューの使用時は、必要に応じて行の高さを調整できます。

詳細については、[「Business Process Testing の【テスト スクリプト】 タブ」](#)を参照してください。

新機能

第1章: ALM 12.50 の新機能



## 第2章: ALM 12.21/12.20 の新機能

この新機能ガイドでは HP Application Lifecycle Management (ALM) 12.21/12.20 で導入または拡張された機能の概要を説明します。

**ヒント:** Performance Center 12.20 の新機能については、[「Performance Center 12.20 の新機能」\(35ページ\)](#)を参照してください。

ALM のメイン・ウィンドウで **[ヘルプ]** > **[ムービー]** を選択すると、HP Application Lifecycle Management の機能について説明するビデオもご覧いただけます。

### バージョン 12.21

- [「HP ALM の更新」\(9ページ\)](#)
- [「Business Process Testing の更新」\(10ページ\)](#)

#### HP ALM の更新

#### 外部テストの統合

ALM は、外部で実行したテスト結果を ALM と同期できるようにすることで、テスト機能を強化します。Jenkins などのテスト・フレームワークによって実行された自動化テストは、最新のテスト実行とともに ALM に統合され、品質チームに包括的な品質カバレッジを提供します。Jenkins を使用する場合、この統合によって継続的テスト・プロセスが強化されます。

ALM には、結果を ALM と同期する方法が2種類用意されています。

<b>Jenkins から結果を同期</b>	Jenkins を設定して結果が ALM と同期されるようにすると、Jenkins からジョブを実行するたびに、外部の結果が自動的に ALM と同期されます。
<b>外部テスト・ツールで結果を同期</b>	外部テスト・ツールを使用する場合、ファイルを ALM に手動でインポートすることで、外部の結果ファイルを ALM と同期します。

#### ユーザのロックアウト

ALM サイト管理者は、不正にログインを試みるユーザをロックアウトできます。ユーザがロックアウトされると、そのユーザのステータスは **[非アクティブ]** に設定されます。その後、ユーザをアクティブにするか、期間を設定してユーザを自動的にアクティブにすると、ロックアウトを終了することができます。

#### API リファレンス

- **HP ALM REST API Reference** : REST API を使用すると、ALM データにアクセスして操作することができます。このバージョンでは、不具合の処理がサポートされ、不具合の処理のサポートに必要なインフラストラクチャが提供されます。

- **HP ALM REST API Technical Preview Reference** : HP ALM REST API 製品に加えて、REST API Technical Preview も使用できます。Technical Preview には、ALM 機能のより広範なカバレッジがあります。
- **HP ALM Custom Test Type Reference** : 開発者がテスト・ツールを ALM と統合するために使用するクラスとインタフェースに対するオンライン・リファレンス、および開発ガイドを提供します。

## サポートされる環境

ALM は、Microsoft SQL Server 2014 をサポートするようになりました。

## Business Process Testing の更新

### Microsoft Excel および動的構成を使用した、ビジネス・コンポーネントの反復を設定する機能

Excel ワークシートで複数のシート(データ・テーブル)を定義できるようになりました。最初のシートは、これまでの Business Process Testing バージョンと同様にテスト・パラメータをリストします。ただし今リリースから、後続のシートを使用することで、コンポーネント・パラメータ、およびコンポーネントの複数反復用の値をリストできるようになりました。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

動的テスト設定は異なるデータ・テーブルにアクセスできるため、この機能強化によって、ビジネス・プロセス・テストで回数を変化させながらコンポーネントを実行できるようになりました。たとえば、フライト・アプリケーションのテストで航空券を注文するコンポーネントがある場合、同じテストで同じコンポーネントを使用して、その1つの設定の実行時には1枚の航空券を注文し、その次の設定の実行時には異なる国への7セットの航空券を注文することが可能です。

### コンポーネント、フロー、およびビジネス・プロセス・テストの記録

記録を使用すると、ステップの作成開始前に個別のコンポーネントおよびそれに関連するアプリケーション領域を手動で作成しなくても、アプリケーション内でコンポーネント・ステップ、さらには完全なビジネス・プロセス・テストまたはフローを作成できます。記録時に、ユーザ・アクションを実行し、必要に応じて追加のコンポーネントを作成します。

スクリプト・コンポーネントおよびキーワード自動コンポーネントの両方を記録できます。

また、キーワード・コンポーネントをスキャンして、ALM 内からローカル・オブジェクト・リポジトリにコントロールを追加できます。詳細については、『[キーワード・ビュー表示枠](#)』の『[KWD のスキャン](#)』を参照してください。

詳細については、『Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』および『Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

### BPT パッケージ・アプリ・キットとの統合

BPT パッケージ・アプリ・キットによって、SAP GUI や SAP Fiori などのパッケージ・アプリケーションをテストできる機能が ALM と Business Process Testing に追加されます。この機能には、コンポーネントを学習する機能や、学習したコンポーネントをフローおよびビジネス・プロセス・テストに挿入する機能などが含まれます。また、変更検出機能によって、テストとフローの学習以降にパッケー

ジ・アプリケーション内の機能が変更されたかどうか、またはどのように変更されたかを確認することができます。

BPT パッケージ・アプリ・キットには次の利点があります。

- BPT パッケージ・アプリ・キットは、アプリケーションで実行する操作を自動的に学習し、アプリケーション内の画面とトランザクションに基づいて、コンポーネントを含むフローまたはビジネス・プロセス・テストを生成できます。新規コンポーネントを作成する代わりに、学習したコンポーネントを再利用することも可能です。詳細については、「学習プロセス」を参照してください。
- BPT パッケージ・アプリ・キットを使用すると、アプリケーション上のテストとフローを変更検出モードで実行できます。これにより、フローまたはテストの構築後にアプリケーションがどのように変更されたかを特定し、変更を解決できます。詳細については、『Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

**注:** SAP Fiori はテクニカル・プレビューです。学習機能はサポートされていますが、変更検出機能は今後のサポート予定です。

サポートされているパッケージ・アプリケーションの詳細については、『Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

BPT パッケージ・アプリ・キットの有効化についての詳細は、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

その他の情報については、『Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

## バージョン 12.20

- [「HP ALM の更新」\(11ページ\)](#)
- [「ALM Web クライアントの更新」\(12ページ\)](#)
- [「Business Process Testing の更新」\(13ページ\)](#)

### HP ALM の更新

### エディション

HP ALM に新たに2つの入門エディションが加われました。

- **HP Quality Center Express Edition** : 手動テストや自動テストなどのテスト管理のコア機能と不具合管理のコア機能を利用できます。このライセンスにおける固定または同時ユーザの上限は20人です。
- **HP Quality Center Community Edition** : テスト管理と不具合管理のコア機能を利用できます。このライセンスは無料で、固定ユーザの上限は5人です。

### サポートされる環境

以下に、サポートされる環境への主な追加事項の一部を示します。

**Microsoft Office** : サポートされるのは、64 ビット版の Microsoft Office

**オペレーティング・システム** : Red Hat Enterprise および Oracle Linux 7.0 64 Bit

**データベース・サーバ** : Oracle 12.1.0.1

サポート環境の完全な一覧は、『HP ALM Readme』を参照してください。

## 管理の更新

**LDAP** : ユーザのインポートと認証を複数の LDAP サーバに基づいて行えます。

**サイト・パラメータ** : 利用可能なサイト・パラメータは、HP ソフトウェア・サポート Web サイト (<https://softwaresupport.hp.com>) にある ALM 12.50 のマニュアルにリストされています。

## ユーザビリティの改善

**カラム見出しによるソート** : グリッドやツリー項目 (要件) のソートが、カラム見出しのクリックで行えるようになりました。ソート条件が定義されていない場合、データは昇順にソートされます。

**ドラッグ・アンド・ドロップでの添付** : 添付ファイルのアップロードは、ファイル・エクスプローラや電子メール・プログラムから添付ファイルを [添付] にドラッグ・アンド・ドロップして行えます。同様に、[添付] タブからデスクトップに項目をドラッグ・アンド・ドロップすると、添付ファイルをダウンロードできます。

### 電子メールの機能強化 :

- ・ エンティティを電子メールで送信する場合、メールの受信者などのエンティティへのコメントや、電子メールの [追加コメント] フィールドに入力したテキストを、選択することで追加できます。
- ・ [電子メールの送信] ダイアログ・ボックスのチェックボックスを選択すると、電子メールのコピーを自分自身に送信できます。

## ビジネス・モデル

ALM では、**XPDL 2.2** ファイルにエクスポートした **BPMN 2.0** モデルがサポートされるようになりました。

## ラボ管理ホスト

ホストがタイムスロットに自動的に割り当てられないように除外できます。選択できるホストを名前でも制限したり、特定のユーザだけがホストを利用できるように制限できます。

## ALM Web クライアントの更新

ALM Web クライアントではアプリケーション・ライフサイクルの管理ユーザ・インターフェースが別途提供されており、先進的な製品とソリューションの提供という HP の継続的な取り組みの対象になっています。ALM Web クライアントは、便利で使いやすいインターフェースと新しい機能によって作業効率を高め、ユーザ・エクスペリエンスを向上します。

**注:** 現在、ALM Web クライアント は要件モジュールと不具合モジュールをサポートしています。

HP Application Lifecycle Management 12.20 では、ALM Web クライアント で次の機能と拡張が新しく提供されています。

### トレーサビリティ

- ・ トレーサビリティを追加すると、プレビュー表示枠に選択したエンティティの詳細が表示され、正しいエンティティを識別しやすくなります。

### カスタマイズ

カスタマイズに関する機能拡張には以下があります。

- ・ エンティティを作成、削除、変更したときにフィールドを検証するルールを定義します。
- ・ 別のフィールドから値をコピーしてフィールド値を設定するルールを定義します。
- ・ ビジネス・ルール条件フィールド内で複数のリスト値を選択します。値は Or インジケータで連結されます。たとえば、優先度が「2-普通 or 3-高い」などです。
- ・ ビジネス・ルールは事前定義の値を上書きしますが、ユーザ定義値によってそのビジネス・ルール自体が上書きされます。

### 追加のユーザビリティの拡張機能

- ・ **インライン編集**：グリッド項目のフィールドを直接グリッド内で編集できるようになりました。
- ・ **一括更新**：複数のエンティティ内で最大3つのフィールドを同時に変更します。
- ・ **電子メール・エンティティ**：ユーザはエンティティを電子メールで送信できるようになりました。受信者はメール内のリンクをクリックして、直接エンティティに移動できます。
- ・ **データのエクスポート**：既存のフォーマットに加え Excel ファイルにもグリッド・データをエクスポートできるようになりました。
- ・ **メイン・ツールバーの新しい [不具合のレポート]** ボタンを使うと、不具合のレポートを簡単に行えます。この方法で不具合を報告すると、不具合が報告されたエンティティに不具合が自動的にリンクされます。

### Business Process Testing の更新

Business Process Testing 12.20 には、次の拡張機能が追加されました。

### ビジネス・プロセス・テスト内のビジネス・コンポーネントおよびフローの実行条件

Business Process Testing 12.20 より前のバージョンでは、フロー内のビジネス・コンポーネントの実行条件しか作成できませんでした。本バージョンでは、次の実行条件も作成できます。

- ・ ビジネス・プロセス・テスト内のビジネス・コンポーネント
- ・ ビジネス・プロセス・テスト内のフロー

詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

## パラメータの自動昇格

ビジネス・コンポーネントやフローのパラメータの作成時に、パラメータを上位レベルに自動的に昇格させることができるようになりました。

このオプションの有効/無効の切り替えはプロジェクト管理者が行います。

## 未使用パラメータの自動削除

下位レベルのパラメータが削除された場合に、上位のフローやテストから未使用パラメータを自動的に削除できるようになりました。たとえば、削除したコンポーネント・パラメータがフロー・レベルで使用されていない場合、フローからもそのパラメータが削除されます。

このオプションの有効/無効の切り替えはプロジェクト管理者が行います。

## マニュアル・ランナー機能の変更

ビジネス・プロセス・テストやフローをマニュアル・ランナーで実行している場合、実行条件を満たしていないコンポーネントが含まれるステップは、[次へ]をクリックするとスキップできるようになりました。この場合、ステップは実行されていないため、ステップのステータスは[実行なし]に設定されます。

## Business Process Testing の管理の変更

Business Process Testing でカスタマイズできる機能が増えました。各変更点の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

- ・ 実行結果レポートへのコンポーネント・インスタンスの反復の追加。
- ・ パラメータの自動昇格または自動削除の有効化。詳細については、上記を参照してください。
- ・ コンポーネントがテスト実行中に失敗した場合の標準設定の[失敗時]動作の設定。

## Sprinter との統合

Sprinter で手動ビジネス・コンポーネントを作成できます。

次の表は、この機能をサポートするバージョンを示しています。

	ALM 11.52	ALM 12.01	ALM 12.20
<b>Sprinter 11.52 バッチ 25</b>	はい	いいえ	いいえ
<b>Sprinter 12.01</b>	はい	はい	いいえ
<b>Sprinter 12.20</b>	はい	はい	はい

## 第3章: ALM 12.01 の新機能

この新機能ガイドでは HP Application Lifecycle Management (ALM) 12.01 で導入された機能や拡張された機能の概要を説明します。ALM の使用方法の詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ALM のメイン・ウィンドウで [ヘルプ] > [ムービー] を選択すると、HP Application Lifecycle Management の機能について説明するビデオもご覧いただけます。

### HP Application Lifecycle Management 12.01

HP Application Lifecycle Management (ALM) は、要件からデプロイメントまで、主要アプリケーションのライフサイクルを管理するために組織を強化し、最新アプリケーションの予測可能かつ反復可能で適合性の高い展開のために重要不可欠となる可視性と協調性をアプリケーション・チームに供与します。

ALM は、アプリケーションのライフサイクル管理に関するすべての段階をサポートしています。ALM でアプリケーション管理に関するあらゆる作業を統合することにより、ビジネスのニーズに合わせた活用が可能になります。

ALM には Performance Center の機能も含まれています。このため、Web 経由でアクセスできる一元集中管理された場所から、リソースの割り当てやスケジュール設定など、大規模なパフォーマンス・テスト・プロジェクトに関するあらゆる側面を管理できます。Performance Center の新機能の詳細については、「[Performance Center 12.01 の新機能](#)」(37ページ)を参照してください。

### ALM Web クライアントの更新

ALM Web クライアントは、先進的な製品とソリューションの提供に向けての HP の継続的な取り組みの一環として、アプリケーション・ライフサイクル管理用の新しい代替ユーザ・インタフェースを提供しています。ALM Web クライアントは、便利で使いやすいインタフェースと新しい機能によって作業効率を高め、ユーザ・エクスペリエンスを向上します。

**注:** 現在、ALM Web クライアントは要件モジュールと不具合モジュールをサポートしています。

HP Application Lifecycle Management 12.01 では、ALM Web クライアント で次の機能と拡張が新しく提供されています。

#### 編集モード

1つのドキュメントとして複数の要件を編集する際の機能が改良され、次の操作が可能になりました。

- ドキュメント・ビュー内から要件を追加または削除できます。
- ドキュメント内の各要件の説明には、ALM デesktop・クライアントの [リッチ テキスト] タ

ブまたは【説明】フィールドを選択します。

- 要件をHTML, PDF, Word の各形式でエクスポートできるようになりました。

## 不具合モジュール

グリッド・データをHTML, PDF, Word の各形式にエクスポートできるようになりました。

## トレーサビリティ

次に示す、より包括的なトレーサビリティ機能が新機能として備えられました。

- グリッド・ビューにより特定のトレーサビリティ・リンクにドリル・ダウンできます。このビューでは、項目をフィルタして、表示するフィールドを選択できます。
- 要件のトレーサビリティを表示する際には、子要件を含めるかどうかを選択できます。また、要件にリンクされた不具合を表示する際には、直接と間接の両方のリンクを含めることができます。
- 要件をIDでリンクするだけでなく、説明名で要件を検索してリンクできるようになりました。

## カスタマイズ

### ・ フォーム

フォーム・デザインおよびフォーム・レンダリングが改良され、フォームの作成が容易になりました。

- フォームの設計中に、フィールドをドラッグ・アンド・ドロップして順序を変更できます。
- 読み取り専用のシステムの標準設定フォームが利用可能になりました。このフォームを複製して、独自のフォームを作成できます。必要な場合はいつでもシステムの標準設定フォームに戻ることができます。
- ALM Web クライアントでは、フォーム内の1行に表示できるフィールド数を決定することで、スペースを最適化できるようになりました。

### ・ ビジネス・ルール

機能の追加により、管理者は、組織のポリシーを強化したり、ワークフローをディクテートできるようになりました。ビジネス・ルールに関する主な新機能は次のとおりです。

- グリッドでのテキスト入力によるルールのリストのフィルタ。アクション、条件、または注釈がテキストに一致するルールだけがリストされます。
- 条件のないルールの作成。このようなルールは無条件に評価されます。
- ルール条件を他のモジュールを参照するフィールド(リリース・モジュールの【ターゲット リリース】や【ターゲット サイクル】など)の値に基づかせることができます。
- 次のようなルールの定義。
  - ユーザ定義フィールドとシステム・フィールドの両方に対して異なるルックアップ・リストを選択する。
  - フィールド・ルックアップ・リストの値をこれらの値のサブセットに制限する。



- エンティティの作成、削除、変更時に電子メールを送信するルール。
- エンティティの作成またはフィールドの変更時にフィールド値を設定するルール。

#### ● 一般的な内容

次の一般的な機能拡張がカスタマイズに追加されました。

- 1人の管理者がカスタマイズのために排他的アクセスでき、その間他のユーザは既存の設定を表示できるように、**【ロックして編集】**機能が新しくなりました。
- **ステー징と運用環境**：プロジェクトのセットアップでステー징用にビジネス・ルールとフォームを定義し、準備が整ったところでビジネス・ルールを運用中のプロジェクトにエクスポートできるようになりました。

### 追加機能とユーザビリティの機能拡張

新機能とユーザビリティの改良により、ユーザ・エクスペリエンスが次のように強化されました。

- プレビュー表示枠を利用できるようになったことで、グリッド・ビューでのエンティティの詳細の表示と編集がより使いやすくなりました。
- フィールド値のオート・コンプリートのためのプリセット値テンプレートを定義してロードすることにより、エンティティ追加の時間を節約できます。
- フィルタとカテゴリを使用する場合、新しくなった**【子を含む階層】**ビューには、一致する要件の子のほかに、一致する要件を導く親子間のパスが表示されます。これにより、要件の全体像がわかりやすくなります。
- 対応する親要件を変更することで、階層内の要件の場所を変更できます。
- 階層が表示されない場合に、親要件を割り当てることで、**フラット・ビュー**に要件を追加できるようになりました。
- 新しいエンティティを追加する際に、そのエンティティを最初に保存しなくても、添付ファイルを追加できるようになりました。
- **詳細ビュー**で、要件を切り取り、コピー、貼り付け、削除することができるようになりました。
- メモ・フィールドの改良により、画像をメモ・フィールドに直接貼り付けたり、ネイティブなブラウザのスペル・チェック機能を使用したりできるようになりました。

上記の機能の詳細については、『ALM Web クライアント・ユーザズ・ガイド』を参照してください。

**ヒント:** ALM のデモ・プロジェクトである **ALM\_Demo** には、ALM Web クライアントの学習に便利なデータとエンティティが含まれています。重要なプロジェクトの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

## サイト設定の更新

[サイト設定] タブに、次のパラメータが追加されました。

- ALLOW\_HTTP\_METHOD\_OVERRIDE
- ALLOW\_WEBUI\_HTTP\_METHOD\_OVERRIDE
- REQUIREMENT\_AUTHOR\_USE\_RICHTEXT

新しいパラメータの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

## ALM ヘルプ

『ALM インストールおよびアップグレード・ガイド』は、Windows ユーザ用と Linux ユーザ用の2つのガイドに新たに分割されました。これらのガイドは、ユーザの環境に適した情報を提供するようにカスタマイズされています。新しいガイドは、ALM のヘルプ・ページの [インストールガイド] の下にあります。

# 第4章: ALM 12.00 の新機能

この新機能ガイドでは HP Application Lifecycle Management (ALM) 12.00 で導入された機能や拡張された機能の概要を説明します。ALM の使用方法の詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ALM のメイン・ウィンドウで **[ヘルプ]** > **[ムービー]** を選択すると、HP Application Lifecycle Management の機能について説明するビデオもご覧いただけます。

- [「HP ALM 12.00」 \(19ページ\)](#)
- [「外部認証」 \(19ページ\)](#)
- [「新しいロック・アンド・フィール」 \(20ページ\)](#)
- [「新しいALM Web クライアント」 \(21ページ\)](#)
- [「全般的な更新」 \(22ページ\)](#)
- [「利用可能な機能の変更」 \(22ページ\)](#)
- [「管理の更新」 \(22ページ\)](#)
- [「サイト設定」 \(22ページ\)](#)
- [「Business Process Testing の更新」 \(24ページ\)](#)
- [「ラボ管理の更新」 \(26ページ\)](#)
- [「Lab Service でのプロキシ・サーバ設定」 \(26ページ\)](#)
- [「タイムスロットの自動延長」 \(26ページ\)](#)
- [「ヘルプ」 \(26ページ\)](#)

## HP ALM 12.00

HP Application Lifecycle Management (ALM) は、要件からデプロイメントまで、主要アプリケーションのライフサイクルを管理するために組織を強化し、最新アプリケーションの予測可能かつ反復可能で適合性の高い展開のために重要不可欠となる可視性と協調性をアプリケーション・チームに供与します。

ALM は、アプリケーションのライフサイクル管理に関するすべての段階をサポートしています。ALM でアプリケーション管理に関するあらゆる作業を統合することにより、ビジネスのニーズに合わせた活用が可能になります。

ALM には Performance Center の機能も含まれています。このため、Web 経由でアクセスできる一元集中管理された場所から、リソースの割り当てやスケジュール設定など、大規模なパフォーマンス・テスト・プロジェクトに関するあらゆる側面を管理できます。Performance Center の新機能の詳細については、[「Performance Center 12.00 の新機能」 \(39ページ\)](#)を参照してください。

## 外部認証

ALM は、スマート・カード認証やシングル・サインオンなどの外部認証システムをサポートします。


- スマート・カード認証**：スマート・カードとは、セキュアなシステムでのユーザ識別に使用する物理デバイスです。スマート・カードには、ユーザIDの検証とセキュアな環境へのアクセス許可の両方に必要な証明書を保存できます。現在、ALMはスマート・カード認証としてCAC (Common Access Card) をサポートしています。ALMは、JITC認定です。詳細については、[http://jitc.fhu.disa.mil/pki/pke\\_lab/app\\_testing/application\\_status.html](http://jitc.fhu.disa.mil/pki/pke_lab/app_testing/application_status.html) (英語サイト) を参照してください。
- シングル・サインオン**：シングル・サインオン (SSO) とはセッションやユーザの認証プロセスであり、ユーザはユーザ名とパスワードを1回入力することによって複数のアプリケーションにアクセスできるようになります。現在、ALMはシングル・サインオン認証としてSiteMinderをサポートしています。

ALMでは、ユーザ名とパスワードを手動入力する標準的な認証モデルの代わりに、このような外部認証システムを使用する設定が可能です。外部認証ユーザによるALMへのログインでは、ユーザ名とパスワードの入力は必要ありません。

## 新しいルック・アンド・フィール






このバージョンのALMには、まったく新しいルック・アンド・フィールが追加されています。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』の「起動方法」および「共通領域」を参照してください。

このような設計変更に伴い、ALMのメイン・ウィンドウは次の2点で大きな変更が行われています。

- [ツール] メニューがマストヘッドから削除されました。**メニュー項目のほとんどはマストヘッドの  からアクセスできます。
- [ヘルプ] メニューは、マストヘッドからサイドバーの下に移動しました。**

変更内容を次の表にまとめます。

旧バージョン	ALM 12.00
[ツール] > [プロジェクトを変更]	<ドメイン, プロジェクト>
[ツール] > [カスタマイズ]	 > [カスタマイズ]
[ツール] > [新規不具合]	 > [新規不具合]
[ツール] > [スペルと文法]	 > [スペルと文法]
[ツール] > [履歴のクリア]	 > [履歴のクリア]
[ツール] > [タスク マネージャ]	 > [タスク マネージャ]
[ツール] > [スタンドアロンのアプリケーションのダウンロード] (PCのみ)	 > [スタンドアロン アプリケーションのダウンロード] (PCのみ)

旧バージョン	ALM 12.00
[ツール] > [イベントログ] (PCとALMエディション)	 > [イベントログ] (PCのみ)
[ツール] > [ラボ設定] (PC Edition と ALM Edition のみ)	 > [ラボ設定] (PC Edition と ALM Edition のみ)
[ツール] > [Performance Center Controller のオプション] (PCのみ)	 > [Performance Center Controller のオプション] (PCのみ)
[ツール] > [My Performance Center] (PCのみ)	 > [My Performance Center] (PCのみ)
[ヘルプ] > [このページのヘルプ]	
[ヘルプ] > [文書ライブラリ]	[ヘルプ] > [ALM ヘルプ]
[ヘルプ] > [HP ソフトウェア サポート]	[ヘルプ] > [ソフトウェア サポート オンライン]
[ヘルプ] > [HP ソフトウェア Web サイト]	[ヘルプ] > [HP ソフトウェア Quality Center Web サイト]
[ヘルプ] > [ALM Web サイト]	[ヘルプ] > [HP Application Lifecycle Management Web サイト]
[ヘルプ] > [ALM コミュニティ フォーラム]	[ヘルプ] > [ALM コミュニティ]
[ヘルプ] > [HP Application Lifecycle Management ソフトウェアのバージョン情報]	[ヘルプ] : 現在実行中の ALM コンポーネントのバージョンがウィンドウの右側に表示されます。

次のメニュー項目は削除されました。

- [ツール] > [ドキュメント ジェネレータ]
- [ヘルプ] > [ようこそ] ページ

## 新しい ALM Web クライアント

ALM Web クライアントは、先進的な製品とソリューションの提供に向けての HP の継続的な取り組みの一環として、アプリケーション・ライフサイクル管理用の新しい代替ユーザ・インタフェースを提供しています。ALM Web クライアントは、便利で使いやすいインタフェースと新しい機能によって作業効率を高め、ユーザ・エクスペリエンスを向上します。

**注:** 現在、ALM Web クライアントは要件モジュールと不具合モジュールをサポートしています。

ALM Web クライアントではクライアント・コンポーネントをコンピュータ上にダウンロードしないので、ALM を使用する際に管理者権限が必要なくなりました。ALM Web クライアントは幅広いブラウザとオペレーティング・システム環境で使用できます。サポートされるブラウザとオペレーティング・システムについては、『ALM リリース・ノート』を参照してください。

ALM Web クライアントでは次に示すように、ALM デスクトップ・クライアントにはない機能を使用できます。

- **編集モード:** ドキュメント中心の表示モードです。1つのドキュメント・ビューで要件を一覧表示でき、説明を簡単に編集できます。このモードは、全体像を把握するときに便利です。

- **カテゴリ・ビュー**：仮想フォルダに基づく動的な階層構造であり、要件ビューを柔軟に操作できます。新しいカテゴリ・フィールドを選択すると、それに基づいてリアルタイムでビューが更新されます。このビューは柔軟な機能を備えているので、要件の構成を決めるときに便利です。

上記の機能の詳細については、『ALM Web クライアント・ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

**ヒント**: ALM のデモ・プロジェクトである ALM\_Demo には、ALM Web クライアントの学習に便利なデータとエンティティが含まれています。重要なプロジェクトの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

## 全般的な更新

HP Application Lifecycle Management 12.00 には、次のユーザビリティの拡張機能が追加されました。

### 添付へのクイック・アクセス

エンティティの添付アイコンをクリックすると、添付のリストが表示されます。添付ファイルをリストから直接開くことができます。

### 固定項目

要件、テスト計画、不具合の固定が可能です。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

### メモ・フィールドのズーム・インとズーム・アウト

リッチ・コンテンツのメモ・フィールドのツールバーに、ズーム・インとズーム・アウトのボタンが追加されました。

### クロス・プロジェクト・ビジネス・ビュー Excel レポート

ビジネス・ビュー Excel レポートが、複数のプロジェクトのデータから作成できるようになりました。データはプロジェクト単位で表示され、ソートされます。

## 利用可能な機能の変更

HP Application Lifecycle Management 12.00 では、次の機能の一部が利用できなくなりました。

- Excel レポート

## 管理の更新

この項では、HP Application Lifecycle Management 12.00 の管理の機能強化について説明します。

## サイト設定

[サイト設定] タブで、次のカテゴリに次のパラメータが追加されました。

### **カスタマイズ :**

- DISABLE\_ASYNC\_CUSTOMIZATION\_LOAD

### **外部認証 :**

- EXTERNAL\_AUTH\_CERTIFICATE\_CRL\_CHECK
- EXTERNAL\_AUTH\_CERTIFICATE\_CRL\_FOLDER
- EXTERNAL\_AUTH\_CERTIFICATE\_DELTA\_CRL\_CHECK
- EXTERNAL\_AUTH\_CERTIFICATE\_LOCAL\_CRL\_CHECK
- EXTERNAL\_AUTH\_CERTIFICATE\_OCSP\_CHECK
- EXTERNAL\_AUTH\_CERTIFICATE\_OCSP\_REQUIRED
- EXTERNAL\_AUTH\_CERTIFICATE\_POLICY\_CHECK
- EXTERNAL\_AUTH\_CERTIFICATE\_VALID\_POLICY
- EXTERNAL\_AUTH\_CERTIFICATES\_FILE
- EXTERNAL\_AUTH\_DEBUG\_LEVEL
- EXTERNAL\_AUTH\_EXECUTION\_MODE\_HEADER\_NAME
- EXTERNAL\_AUTH\_EXTENDED\_HARDWARE\_KEYS
- EXTERNAL\_AUTH\_HARDWARE\_CARD\_IS\_REQUIRED
- EXTERNAL\_AUTH\_HEADER\_NAME
- EXTERNAL\_AUTH\_IS\_POLICY\_REQUIRED
- EXTERNAL\_AUTH\_MODE
- EXTERNAL\_AUTH\_USER\_FIELD\_PATTERN
- EXTERNAL\_AUTH\_USER\_FIELD\_TYPE
- EXTERNAL\_AUTH\_VALIDATE\_USER\_IN\_LDAP

### **入力の検証 :**

- INPUT\_VALIDATION\_LOGPATH
- INPUT\_VALIDATION\_MODE

### **プロジェクトの計画と追跡 :**

- PPT\_KPI\_FAILURES\_PERCENTAGE\_PER\_RELEASE\_FUSE
- PPT\_RECENTLY\_USED\_PROJECTS\_THRESHOLD\_MINUTES

### **REST API :**

- DOWNLOAD\_REST\_ATTACHMENTS
- REST\_API\_HTTP\_CACHE\_ENABLED
- REST\_API\_MAX\_BULK\_SIZE

- REST\_API\_MAX\_ENTITY\_TREE\_SIZE

### セキュリティ :

- ENABLE\_JMX\_CONSOLE
- ENABLE\_OUTPUT\_SANITIZATION
- ENABLE\_XSRF\_VALIDATION
- OUTPUT\_SANITIZATION\_BY\_CLIENT\_TYPE
- TEXT\_ENCODING\_BY\_CLIENT\_TYPE

### Web UI :

- ALLOW\_WEBUI\_ACCESS

新しいパラメータの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

外部認証パラメータの詳細については、『HP Application Lifecycle Management External Authentication Configuration Guide』を参照してください。

## Business Process Testing の更新

HP Application Lifecycle Management 12.00 の新機能は、Business Process Testing エンティティでもサポートされています。さらに以下の Business Process Testing 機能が、ALM 12.00 に新たに導入されるか、あるいは拡張されました。

これらの機能の詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

- [「マニュアル・ランナーの改善点」\(24ページ\)](#)
- [「ビジネス・プロセス・テストをプリントアウトから手動実行」\(25ページ\)](#)
- [「サイト管理とカスタマイズ」\(25ページ\)](#)
- [「Sprinter との統合」\(25ページ\)](#)
- [「UFT との統合」\(26ページ\)](#)

### マニュアル・ランナーの改善点

ビジネス・プロセス・テストで使用するマニュアル・ランナーでは、ユーザ・インタフェースの改善とパフォーマンスの向上に加えて、手動実行中にビジネス・コンポーネント・スナップショットを表示できるようになりました。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』で、ビジネス・プロセス・テストの手動実行の項を参照してください。



## ビジネス・プロセス・テストをプリントアウトから手動実行

新しく追加された2つのレポートでは、プリントアウトからテスト・ステップを実行することにより、ビジネス・プロセス・テストを手動実行できます。このレポートのプリントアウトには、ビジネス・プロセス・テストの各フローのパラメータ値、反復、グループ、コンポーネント、手動ステップが示されています。利用可能なプロジェクト・レポートの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

レポートにアクセスするには、テスト計画モジュール > [アナリシス] メニュー > [プロジェクトレポート] オプションを選択します。

- ビジネス・プロセス・テストとコンポーネント・ステップ
  - ビジネス・プロセス・テストとコンポーネント・ステップおよびコンポーネントの詳細
- 詳細レポートでは、テストとスナップショットの各コンポーネントに関する詳細情報が表示されます。

**ヒント:** これらのレポートは、監査目的でも実行できます。

## サイト管理とカスタマイズ

サイト管理では、Business Process Testing をカスタマイズする権限をグループによって設定します。たとえば、サイト管理者はビューア・グループに所属し、Business Process Testing のカスタマイズを実行できます。詳細については、[管理] タブの [ビジネス プロセス テストのカスタマイズ] アクセス許可レベルを参照してください。

## Sprinter との統合

Sprinter で手動ビジネス・コンポーネントを作成できます。

次の表は、この機能をサポートするバージョンを示しています。

	ALM 11.00 (サービス・パック 3 以降)	ALM 11.50	ALM 11.51	ALM 11.52	ALM 12.00
<b>Sprinter 11.00</b>	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
<b>Sprinter 11.50</b>	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ
<b>Sprinter 11.50 (パッチ 14 またはパッチ 18)</b>	はい	はい	はい	いいえ	いいえ
<b>Sprinter 11.52</b>	はい	いいえ	いいえ	はい	いいえ
<b>Sprinter 12.00</b>	はい	いいえ	いいえ	はい	はい

## UFT との統合

UFT との統合では、次の点が改善されています。

- **API テスト**：API オートメーション対応のコンポーネントを含むビジネス・プロセス・テストを実行すると、HP 実行結果ビューアで結果レポートを表示できます。旧バージョンでは、この機能は GUI テスト・オートメーションのみでサポートされていました。
- **新しいテスト実行環境機能**：ビジネス・プロセス・テストとフローは、UFT を使用する場合、BPT ラッパー・テスト機能を使用せず、新しいテスト実行環境機能を使用します。
- **ビジネス・プロセス・テスト**は、**UFT** 内で直接編集および実行できます。ビジネス・プロセス・テストとフローは UFT IDE 内でネイティブ・テストとして動作します。したがって、UFT IDE でのテスト編集作業が簡単になり、ビジネス・プロセス・テストのデバッグがスムーズになり、ビジネス・プロセス・テストの作成パフォーマンスも向上しています。詳細については、『HP Unified Functional Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

## ラボ管理の更新

この項では、HP Application Lifecycle Management 12.00 のラボ管理の機能強化について説明します。


### Lab Service でのプロキシ・サーバ設定

[Lab Service の設定] ページに、プロキシ・サーバを設定するタブが追加されました。プロキシ・サーバの設定では、ユーザ名とパスワードを使用する認証がサポートされます。

### タイムスロットの自動延長

自動延長を有効にすると、すべてのテストが完了する前に機能テスト・セットまたはビルド検証スイートのタイムスロットが終了しても、テストを終了できるようにそのタイムスロットが自動的に延長されます。

## ヘルプ

HP ALM ヘルプに対話式で参照できる用語集が追加されました。用語集に含まれる用語が青色で表示され、用語の横に用語集アイコンが表示されます。用語をクリックすると、ポップアップ・ウィンドウが開いて説明が表示されます。

## 第5章: ALM 11.52 の新機能

この新機能ガイドでは HP Application Lifecycle Management (ALM) 11.52 で導入された機能や拡張された機能の概要を説明します。ALM の使用方法の詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ALM のメイン・ウィンドウで [ヘルプ] > [ムービー] を選択すると、HP Application Lifecycle Management の機能について説明するビデオもご覧いただけます。

**注:** \*ALM 11.50 と Unified Functional Testing 11.50 または LoadRunner 11.51 との間の統合のための Integration Enablement Pack がリリースされました。

- 「全般的なユーザビリティの改良」(27ページ)
- 「ビジネス・ビュー Excel レポート」(27ページ)
- 「プロジェクトの計画と追跡 (PPT) リリースの機能拡張」(28ページ)
- 「管理の更新」(28ページ)
- 「Business Process Testing」(28ページ)
- 「ラボ管理」(28ページ)
- 「ALM Advisor」(28ページ)
- 「ALM ヘルプ」(28ページ)
- 「サポートされる環境」(29ページ)
- 「統合マトリクス」(29ページ)

### 全般的なユーザビリティの改良

ALM オプション・ウィンドウにある [全画面モードで開く] アイコンを使用すると、ALM が全画面モードで開き、HP ALM を使用する際に画面全体を利用できます。

### ビジネス・ビュー Excel レポート

新しい Business Views Excel アドインにより、ALM 担当者は、任意の ALM データのスライスとダイス、作成と共有を簡単にできるようになりました。このアドインをインストールすると、Excel にアドインのタブが追加され、ALM を開かずに ALM のビジネス・ビューに基づいてワークシートを設定して、Excel の高機能なツールセットを利用してデータの表示や分析を実行できます。

## プロジェクトの計画と追跡 (PPT) リリースの機能拡張

リリース・スコープ・アイテムに含めるコンテンツを選択する際、選択した要件、テスト、テスト・セット (および関連付けられたテスト・インスタンス、実行、実行ステップ) にリンクする不具合を含めることができます。

## 管理の更新

新しいサイト設定パラメータがいくつか追加され、いくつかのパラメータの名前が変更されています。

## Business Process Testing

HP Application Lifecycle Management 11.52 の新機能は、Business Process Testing エンティティに対してもサポートされます。また、ビジネス・プロセス・テストおよびフローでは、UFT 11.50 を使用する場合は、BPT ラッパー・テスト機能は使用しません。

## ラボ管理

ラボ管理にいくつかの拡張機能が追加されています。機能テスト・セットとビルド検証スイートからテストを実行している場合、[推奨される継続時間] を使用すると、以前のテスト実行に基づいてテストの継続時間を設定できます。HP ALM Lab Service にも更新が行われています。自動ログイン機能を使用すると、自動的にテスト・ホストにログインしてテストを実行するように、Lab Service を設定できます。また、ラボ管理の [テスト・ホスト] グリッドで、実行中の Lab Service のバージョンを表示できます。オープン・ソースの Jenkins プラグインが開発され、サーバ側の実行 (機能テスト・セットまたはビルド検証スイート) を Jenkins ビルド・ステップとして開始できるようになりました。結果は Jenkins と ALM テスト実行モジュールで報告されます。このオープン・ソース・プラグインのサポートは、Jenkins コミュニティによって行われます。ダウンロードとドキュメントについては、次のサイトをご覧ください: <https://wiki.jenkins-ci.org/display/JENKINS/HP+Application+Automation+Tools>

## ALM Advisor

ALM Advisor は、現在の ALM/QC Enterprise デプロイメントを分析し、ALM/QC Enterprise 構成の改善のための環境に応じた提案を行う役割を果たします。現在の環境で収集したデータを [HP ALM Advisor Web サイト](#) にアップロードしてください。

## ALM ヘルプ

オンライン・ヘルプのホーム・ページが新しくなり、ALM を初めて使用するための情報や主な作業の説明に容易にアクセスできるようになりました。特定のタスクの実行方法を説明するために、方法の

紹介ムービーが追加されました。オンライン・ヘルプの検索タブにフィルタ機能が追加されました。これにより、ALM ヘルプ内の特定のブックだけを検索することができます。

## サポートされる環境

ALM サーバおよびクライアント・マシンでサポートおよび推奨されるシステム構成については、[HP ソフトウェア・サポート・オンライン](#)を参照してください。

## 統合マトリクス

ALM は、HP 製ツールやサードパーティ製ツールとの統合や同期化を行うソリューションを提供しています。ALM と他のツールとの統合には、アドインのインストールが必要になることがあります。ツールのサポート対象バージョンを確認するには、[統合マトリクス](#)を参照してください。



## 第6章: ALM 11.50 の新機能

この新機能ガイドでは HP Application Lifecycle Management (ALM) 11.50 で導入された機能や拡張された機能の概要を説明します。ALM の使用方法の詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ALM のメイン・ウィンドウで [ヘルプ] > [ムービー] を選択すると、HP Application Lifecycle Management の機能について説明するビデオもご覧いただけます。

- 「インストール」 (31ページ)
- 「ビジネス・ビュー」 (31ページ)
- 「ラボ管理」 (31ページ)
- 「プロジェクト・レポート」 (32ページ)
- 「管理の更新」 (32ページ)
- 「Business Process Testing」 (32ページ)
- 「ALM ヘルプ」 (32ページ)
- 「サポートされる環境」 (32ページ)
- 「統合マトリクス」 (32ページ)

### インストール

アプリケーション・サーバは ALM のコア機能の一部となったので、ALM をホストする目的でサードパーティ・アプリケーション・サーバをインストールする必要はありません。ALM に各種機能を追加する ALM 拡張 (HP Enterprise Integration module for SAP applications や HP Service Test Management など) は、ALM と一緒にインストールされるようになりました。

### ビジネス・ビュー

ビジネス・ビュー・グラフは1つまたは複数のエンティティに基づいて作成できます。また、ALM には事前定義のビジネス・ビューが付属し、きめ細かいカスタマイズが可能です。また、ユーザ・ニーズに合わせて継続的に変更していくこともできます。

### ラボ管理

HP ALM ラボ管理では、統合とデリバリーに適用する継続的なプラクティスを実装することができます。ラボ管理には、テスト環境のデプロイメントと、機能テストおよびパフォーマンス・テストを無人実行するスケジュール設定を自動的に行うツールが付属します。ALM サーバは、ラボ管理を使用してテスト実行を制御することにより、ユーザが ALM からログアウトした後でも継続してテスト・ホスト上でテストを実行できます。また QA 担当者は、機能テストの自動実行をスケジュールリングでき、条件に一致するテスト・ホストの自動割り当ても可能です。新しい [実行レポート] ページでは、機能テスト・セット実行とビルド検証スイートの実行を、実行中でも分析できます。さ

らに、テスト・リソースの管理を一元化することで、作業をさらに効率化できます。また、テスト・セットをビルド検証スイートに追加することで、継続的な環境チェックの実行が可能です。テスト・ング・ホストと ALM 間の通信のセキュリティが強化されているので、ファイアウォールの後ろに配置されているテスト・ホストで機能テストをシームレスに実行できます。さらに、HP Continuous Delivery Automation (CDA) との統合を通じて、プライベート・クラウドまたはパブリック・クラウド上にテスト環境を自動的にデプロイすることができます。

## プロジェクト・レポート

プロジェクト・レポートは、.zip ファイルとしてローカルにダウンロードできます。既存のグラフをレポートに追加するか、新しいグラフを直接レポートに作成できます。定義済みのプロジェクト・レポートに、要件、テスト計画、テスト・ラボ、不具合、ビジネス・コンポーネントの各モジュールからアクセスできるようになりました。

## 管理の更新

複数のサイト管理クライアントを同時に実行することが可能になりました。その他の新しい機能として、SQL Server の ALM プロジェクトでの Unicode サポート、[ライセンス] タブの変更、サイト設定に新しく追加されたパラメータなどがあります。

## Business Process Testing

テスト・スクリプトのキャンバスなどの新機能や、ビジネス・コンポーネントのデザインでの機能拡張などが追加されています。

## ALM ヘルプ

オンラインヘルプのブラウザはデザインを一新し、機能が拡張されています。また ALM ヘルプでは、ベスト・プラクティス・ガイドと新しい API リファレンス・ドキュメントに加えて、『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照できます。

## サポートされる環境

ALM サーバおよびクライアント・マシンでサポートおよび推奨されるシステム構成については、[HP ソフトウェア Web サイト](#)を参照してください。

## 統合マトリクス

ALM は、HP 製ツールやサードパーティ製ツールとの統合や同期化を行うソリューションを提供しています。ALM と他のツールとの統合には、アドインのインストールが必要になることがあります。ツールのサポート対象バージョンを確認するには、[統合マトリクス](#)を参照してください。



# 第7章: Performance Center 12.50 の新機能

この新機能ガイドでは HP ALM Performance Center 12.50 で導入または拡張された機能の概要を説明します。HP ALM Performance Center の使用方法の詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

**ヒント:** ALM 12.50 の新機能については、[「ALM 12.50 の新機能」\(5ページ\)](#)を参照してください。

ALMのメイン・ウィンドウで **[ヘルプ]** > **[ムービー]** を選択すると、HP ALM Performance Center の機能について説明するビデオもご覧いただけます。

- [「Performance Application Lifecycle \(PAL\)」\(33ページ\)](#)
- [「HP Network Virtualization \(NV\) 統合の改善」\(33ページ\)](#)
- [「HP Service Virtualization 統合の改善」\(33ページ\)](#)
- [「ノイズ・ジェネレータ・スクリプト」\(34ページ\)](#)
- [「VuGen 仮想ユーザ・スクリプトのアップロード」\(34ページ\)](#)
- [「スクリプトの実行環境設定の更新」\(34ページ\)](#)
- [「モニタ・プロファイルのコピー」\(34ページ\)](#)
- [「HP Performance Center のプロトコル使用状況レポート」\(34ページ\)](#)
- [「VuGen の拡張機能」\(34ページ\)](#)

## Performance Application Lifecycle (PAL)

PAL 機能が改善され、完全なエンドツーエンドのテストと DevOps フィードバックが可能になりました。ユーザは、パフォーマンス・テストの結果を実際の運用環境データ・ベンチマークと正確に比較できます。これらの結果を分析すると、実際の環境に限りなく近いパフォーマンス・テスト・シナリオの作成に役立つフレームワークが得られ、テストの前提条件やリスクが削減されます。

## HP Network Virtualization (NV) 統合の改善

NV 統合に、さまざまなユーザビリティの改善と機能拡張が追加されました。

- PAL のエンドツーエンドのテストで NV の仮想場所を統合する機能。
- Performance Center のインストール中に NV をインストールする機能。
- 統合されたライセンス管理 (Performance Center および Network Virtualization)。

## HP Service Virtualization 統合の改善

[HP Service Virtualization] ダイアログ・ボックスが改善され、テスト実行の前にサービスを設定できるようになりました。

## ノイズ・ジェネレータ・スクリプト

新しいノイズ・テスト機能により、標準の仮想ユーザ・スクリプトと一緒に単純なノイズ・テストを実行できます。ノイズ・テストでは、実際のビジネス・プロセスがなくても基本的な負荷テストを実行できます。

## VuGen 仮想ユーザ・スクリプトのアップロード

スクリプトを Performance Center にアップロードする際に、一度に5個を超えるスクリプトをアップロードできるようになりました。

## スクリプトの実行環境設定の更新

VuGen 仮想ユーザ・スクリプトを Performance Center にアップロードすると、Performance Center はアップロードされたスクリプトの実行環境設定を次のように更新します。

- [一般] > [ログ] ビューでは、[ログを有効にする] オプションが標準設定では選択されません。
- [一般] > [思考遅延時間] ビューでは、[思考遅延時間を記録済みとして再生] オプションが標準設定で選択されます。
- [一般] > [その他] ビューでは、[エラー時にスナップショットを生成] オプションが標準設定では選択されません。

## モニタ・プロファイルのコピー

モニタを管理する際に、プロファイルを別のモニタにコピーできるようになりました。

## HP Performance Center のプロトコル使用状況レポート

高度な機能を備えた新しいレポート・ツールが、テクニカル・プレビューとして提供されます。このスタンドアロン・ツールを使用すると、ALM に対してクエリを実行して、システムの使用状況に関する情報を抽出できます。この情報をオフラインで操作して、仮想ユーザ、ライセンス、ホスト、プロトコルなどの使用状況に関するレポートを生成できます。このツールは、Performance Center 11.xx ~ 12.5x で使用できます。詳細については、HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM01764543 (<https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result/-/facetsearch/document/KM01764543>) を参照してください。

## VuGen の拡張機能

LoadRunner の仮想ユーザのユーザビリティが改善されました。たとえば、JavaScript 言語は Web - HTTP/HTML プロトコルをサポートします。

# 第8章: Performance Center 12.20 の新機能

この新機能ガイドでは HP ALM Performance Center 12.20 で導入または拡張された機能の概要を説明します。HP ALM Performance Center の使用方法の詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

**ヒント:** ALM 12.20 および 12.21 の新機能については、『ALM 12.21/12.20 の新機能』(9ページ)を参照してください。

ALMのメイン・ウィンドウで [ヘルプ] > [ムービー] を選択すると、HP ALM Performance Center の機能について説明するビデオもご覧いただけます。

- 『Microsoft Azure Cloud のサポート』(35ページ)
- 『連続テスト』(35ページ)
- 『プロトコル粒度レポート』(35ページ)
- 『テスト実行トレンド』(35ページ)
- 『ユーザ・エクスペリエンス』(36ページ)
- 『その他』(36ページ)
- 『Virtual User Generator の機能拡張』(36ページ)
- 『プロトコルの拡張機能』(36ページ)
- 『Controller の拡張機能』(36ページ)

## Microsoft Azure Cloud のサポート

Microsoft Azure Cloud からパフォーマンスをテストするクラウド・ホストのプロビジョニングが行えます。クラウド・ホストの詳細については、『HP ALM ラボ管理ガイド』および『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

## 連続テスト

NUnit, JUnit, または Selenium テストから VuGen スクリプトへの変換が Performance Center で行えるようになりました。変換後は、VuGen スクリプトを Performance Center にアップロードできます。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

## プロトコル粒度レポート

新たに追加されたこの使用状況レポートでは、仮想ユーザ・スクリプトのプロトコル使用状況を確認できます。詳細については、『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

## テスト実行トレンド

新たに追加されたこのトレンド・グラフには、選択したテストの実行が順次表示されます。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

## ユーザ・エクスペリエンス

- **新しいルック・アンド・フィール**：このバージョンの Performance Center には、まったく新しいルック・アンド・フィールが追加されています。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。
- **トポロジ・モジュール**：このモジュールが、Performance Center から利用できるようになりました。アクセスするには、My Performance Center ナビゲーション・バーで、[リソース] > [トポロジ] を選択します。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。
- **タイムスロット・モジュール**：このモジュールが、Performance Center から利用できるようになりました。アクセスするには、My Performance Center ナビゲーション・バーで、[リソース] > [タイムスロット] を選択します。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。
- **実行環境設定**：新たに設計された簡易レイアウトの実行環境設定ビューです。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

## その他

- スクリプトのアップロード時のパフォーマンスと安定性が大幅に向上しました。
- Microsoft Internet Explorer に加え、Google Chrome および Apple Safari ブラウザも Performance Center で使用できるようになりました。
- **インストール中のシステム・ユーザの選択が可能**：Performance Center サーバのインストール中に、新しいシステム・ユーザの作成や IUSR\_METRO システム・ユーザの使用が可能になりました。詳細については、『HP ALM Performance Center インストール・ガイド』の「Performance Center Server および Host のインストールと設定」の項を参照してください。

## Virtual User Generator の機能拡張

LoadRunner の Virtual User Generator (VuGen) のユーザビリティが改善しました。詳細については、[HP Live Network \(HPLN\)](#) から表示できる『HP LoadRunner 12.02 Readme』の「新機能」の項を参照してください。

## プロトコルの拡張機能

いくつかの Virtual User Generator プロトコルの拡張と、それぞれのテクノロジーの最新バージョンのサポート。詳細については、[HP Live Network \(HPLN\)](#) から表示できる『HP LoadRunner 12.02 Readme』の「新機能」の項を参照してください。

## Controller の拡張機能

LoadRunner の Controller の安定性の改善。詳細については、[HP Live Network \(HPLN\)](#) から表示できる『HP LoadRunner 12.02 Readme』の「新機能」の項を参照してください。

# 第9章: Performance Center 12.01 の新機能

この新機能ガイドでは HP ALM Performance Center 12.01 で導入または拡張された機能の概要を説明します。HP ALM の使用方法の詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

ALM のメイン・ウィンドウで [ヘルプ] > [ムービー] を選択すると、HP ALM Performance Center の機能について説明するビデオもご覧いただけます。

- 「HP パブリック・クラウドのサポート」 (37ページ)
- 「テスト実行中の仮想ユーザと VUD の使用」 (37ページ)
- 「Performance Center Community ライセンス・バンドル」 (37ページ)
- 「ログ照合ツール」 (37ページ)
- 「モバイル・ライセンス・バンドル」 (38ページ)
- 「Virtual User Generator の機能拡張」 (38ページ)
- 「プロトコルの拡張機能」 (38ページ)

## HP パブリック・クラウドのサポート

HP パブリック・クラウドからのパフォーマンス・テスト用にクラウド・ホストをプロビジョニングできます。クラウド・ホストの詳細については、『HP ALM ラボ管理ガイド』および『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

## テスト実行中の仮想ユーザと VUD の使用

Performance Center では、タイムスロットの予約とパフォーマンス・テストの実行の際に、仮想ユーザと VUD を同じテストに混在させることができるようになりました。

詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』および『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

## Performance Center Community ライセンス・バンドル

Performance Center に、無料の永久 Community ライセンス・バンドルが付属するようになりました。このバンドルには、Controller × 1 (同時実行数は 1)、PC Lifecycle ユーザ × 1、永久仮想ユーザ × 50 が含まれます。仮想ユーザは、GUI (UFT)、COM/DCOM、テンプレート・プロトコル以外のすべてのプロトコルに対して有効です。Community ライセンス・バンドルにはサポートは含まれません。

コミュニティ・ライセンス・バンドルのインストール方法については、『HP ALM ラボ管理ガイド』を参照してください。

## ログ照合ツール

このアプリケーションを使えば、ALM、Performance Center サーバ、ホスト・マシンのログを ZIP

ファイルに照合することができます。

このツールは、Performance Center サーバから利用できます。[スタート] > [すべてのプログラム] > [HP Software] > [HP Performance Center Server] > [Tools] > [Log Collator] を選択します。

### モバイル・ライセンス・バンドル

モバイル・アプリケーションのテスト用のカスタム・ライセンス・バンドルで、モバイル・アプリケーション - HTTP/HTML, TruClient Ajax - モバイル, SMP の各プロトコルを対象とします。このバンドルには、Performance Center モバイル仮想ユーザと、対応する数の Network Virtualization PC 仮想ユーザ・ライセンスが含まれます。

詳細については、『HP LoadRunner 12.01 Readme』の「新機能」の項を参照してください。『HP LoadRunner 12.01 Readme』は、[HP Live Network \(HPLN\)](#) から表示できます。

### Virtual User Generator の機能拡張

LoadRunner の Virtual User Generator (VuGen) のユーザビリティ, 安定性, パフォーマンスの改善。詳細については、『HP LoadRunner 12.01 Readme』の「新機能」の項を参照してください。

『HP LoadRunner 12.01 Readme』は、[HP Live Network \(HPLN\)](#) から表示できます。

### プロトコルの拡張機能

いくつかの Virtual User Generator プロトコルの拡張と、それぞれのテクノロジーの最新バージョンのサポート。詳細については、『HP LoadRunner 12.01 Readme』の「新機能」の項を参照してください。

『HP LoadRunner 12.01 Readme』は、[HP Live Network \(HPLN\)](#) から表示できます。

# 第10章: Performance Center 12.00 の新機能

この新機能ガイドでは HP ALM Performance Center 12.00 で導入または拡張された機能の概要を説明します。HP ALM の使用方法の詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

ALMのメイン・ウィンドウで [ヘルプ] > [ムービー] を選択すると、HP ALM Performance Center の機能について説明するビデオもご覧いただけます。

- 「パフォーマンス・テストで使用するクラウド・ホストのプロビジョニング」 (39ページ)
- 「My Performance Center の更新」 (39ページ)
- 「Analysis テンプレート」 (40ページ)
- 「PAL の機能拡張」 (40ページ)
- 「Performance Center REST API Reference」 (40ページ)
- 「プロトコルの拡張機能」 (40ページ)
- 「Virtual User Generator の機能拡張」 (40ページ)

## パフォーマンス・テストで使用するクラウド・ホストのプロビジョニング

クラウド環境において、パフォーマンス・テストで使用するホストをプロビジョニングすることができます。新しく追加されたクラウド・ホスト機能では、次の操作を実行できます。

- プロジェクトで使用するクラウド・アカウントを定義します。
- 標準で付属するホスト・テンプレートまたはカスタマイズしたテンプレートを使用してホストのプロビジョニングを行います。
- プロジェクトにクレジットを割り当てることによって、クラウド・ホストを管理します。
- クラウド・ホストの使用状況レポートを表示し、クラウド・ホストの通知を受信します。

クラウド・ホストの詳細については、『HP ALM ラボ管理ガイド』および『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

## My Performance Center の更新

My Performance Center には、次の機能が追加されています。

- テスト計画ツリーとテスト・セットを作成し、Performance Center 内でテストを完全に管理します。
- クラウド・テスト・ホストのプロビジョニングと管理を行います。
- クラウド・ホストの使用状況レポートを表示します。

- テスト・エクスプレス・デザイナーにより、テストの作成プロセスを簡素化します。
- 新しく作成されたシステム・パースペクティブで、テストとリソースを表示および管理します。

My Performance Center の詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

### Analysis テンプレート

HP LoadRunner Analysis でテスト結果を表示するカスタム・テンプレートを作成したら、そのテンプレートを ALM テスト・リソース・モジュールにアップロードします。これにより、他のパフォーマンス・テストにもテンプレートを適用することができます。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

### PAL の機能拡張

Performance Application Lifecycle (PAL) で、Google アナリティクスおよび IIS W3C 拡張ログ・ファイル形式を使用して、運用環境データ・セットを作成できるようになりました。PAL データ・セット・クリエータ・ウィザードでデータ・セットを作成したら、My Performance Center からデータ・セットをアップロードして、PAL レポートで使用します。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

### Performance Center REST API Reference

Performance Center REST ベース API のオンライン・リファレンスが新しく作成されました。REST API を使用することにより、自動化をサポートし継続的な統合を可能にするアクションを実行できます。

### プロトコルの拡張機能

いくつかの Virtual User Generator プロトコルの拡張と、それぞれのテクノロジーの最新バージョンのサポート。詳細については、『HP LoadRunner 12.00 Readme』の「新機能」の項を参照してください。

『HP LoadRunner 12.00 Readme』は、次の場所で入手できます。

- [HP Software マニュアル Web サイト](#)
- [HP Live Network \(HPLN\)](#)

### Virtual User Generator の機能拡張

LoadRunner の Virtual User Generator (VuGen) のユーザビリティ、安定性、パフォーマンスの改善。詳細については、『HP LoadRunner 12.00 Readme』の「新機能」の項を参照してください。

『HP LoadRunner 12.00 Readme』は、次の場所で入手できます。

- [HP Software マニュアル Web サイト](#)
- [HP Live Network \(HPLN\)](#)



# 第11章: Performance Center 11.52 の新機能

この新機能ガイドでは HP ALM Performance Center 11.52 で導入または拡張された機能の概要を説明します。HP ALM の使用方法の詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

ALMのメイン・ウィンドウで [ヘルプ] > [ムービー] を選択すると、HP ALM Performance Center の機能について説明するビデオもご覧いただけます。

- 「Performance Application Lifecycle (PAL)」 (41ページ)
- 「Shunra Network Virtualization の拡張機能」 (41ページ)
- 「My Performance Center のログイン・アクセス」 (41ページ)
- 「VuGen の拡張機能」 (42ページ)
- 「ホスト - Linux ディストリビューション」 (42ページ)
- 「Analysis の拡張機能」 (42ページ)
- 「プロトコル」 (42ページ)

## Performance Application Lifecycle (PAL)

実行時またはその後にテストをチューニングできるようになりました。実行時にテストをチューニングする場合、フレームワークを使用すると、継続的にデータを調整して変更内容をほぼ即座に表示できます。

## Performance Center ライセンスの更新情報

Performance Center とホスト・ライセンスをインストールする場合、1つのライセンス・ファイルで両方のライセンスをインストールできるようになりました。PC ライセンス・モジュール・ウィンドウのユーザ・インタフェースがさらにわかりやすくなり、操作性も向上しました。

## Shunra Network Virtualization の拡張機能

HP ALM Performance Center と Shunra Network Virtualization (旧 Shunra WAN エミュレーション) 間の統合が改善され、仮想ユーザごとにネットワーク仮想化を実行し、Load Generator ごとに複数の場所を定義できるようになりました。その他の拡張機能としては、モバイル・ネットワークをシミュレートする共有または非共有帯域幅のサポートの追加と、パフォーマンス・テストの実行ページと LoadRunner Analysis での新しいネットワーク仮想化グラフがあります。

## My Performance Center のログイン・アクセス

HP Application Lifecycle Management のオプション・ウィンドウから My Performance Center にログインできるようになりました。

### **VuGen の拡張機能**

VuGen にユーザビリティ、機能、パフォーマンスの改良が加えられました。

### **ホスト - Linux ディストリビューション**

サポートされる Linux ディストリビューションが追加されました。

### **Analysis の拡張機能**

Analysis の開始、テスト結果の読み込み、リッチ・レポートの生成、および Analysis API での統計計算のパフォーマンスが向上しました。

### **プロトコル**

既存のプロトコルに拡張機能が追加されました。

# 第12章: Performance Center 11.50 の新機能

この新機能ガイドでは HP ALM Performance Center 11.50 で導入または拡張された機能の概要を説明します。HP ALM の使用方法の詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

ALMのメイン・ウィンドウで [ヘルプ] > [ムービー] を選択すると、HP ALM Performance Center の機能について説明するビデオもご覧いただけます。

- 「インストール」 (43ページ)
- 「Performance Application Lifecycle (PAL)」 (43ページ)
- 「仮想化サービスの統合」 (43ページ)
- 「VuGen の拡張機能」 (43ページ)
- 「プロトコル」 (43ページ)
- 「64 ビット・アプリケーションの記録」 (44ページ)

## インストール

Performance Center 拡張のインストールとデプロイメントが ALM のメイン・インストール・プロセスで行われるようになり、プロジェクトごとの有効化が可能になりました。

## Performance Application Lifecycle (PAL)

Performance Application Lifecycle (PAL) を使用すると、パフォーマンス・テストとアプリケーションのデプロイメントをより効率的に計画するために開発と運用の間でパフォーマンス情報を共有できます。

## 仮想化サービスの統合

簡単に使用できないサービスや高コストなサービスを含むビジネス・プロセスの負荷テストを容易にするため、Performance Center に HP Service Virtualization が統合されます。この統合により、実際のサービスをシミュレートする仮想化サービスを実行することができます。

## VuGen の拡張機能

VuGen のユーザ・インターフェースが改善され、柔軟かつカスタマイズしやすいユーザ・インターフェースを実現できるように強化されました。IDE の刷新により、スクリプト作成が容易になり、生産性が向上します。

## プロトコル

新しいプロトコルと機能が追加され、既存の機能には拡張機能が追加されました。

## **64 ビット・アプリケーションの記録**

64 ビット・オペレーティング・システムの既存のサポートに、64 ビット・アプリケーションの記録が追加されました。

# フィードバックをお送りください



新機能 について何かお気づきのことはありませんか?

ご意見をお聞かせください。 [SW-Doc@hp.com](mailto:SW-Doc@hp.com)

